

令和4年度千葉県立若松高等学校 学校目標及び自己評価

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組, 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員アンケート, 保は保護者アンケート, 生は生徒アンケート)	肯定率	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ	
学校経営	1 職員間の連携の下、効率的に校務を運営し、生徒が安心して学べる学校づくりを推進する。 2 保護者や関係機関との協力、連携の下、多様な力を活用して生徒を成長させる学校を目指す。	① ホームページの内容を精選し、より見やすくするとともに、学校の様子や教育活動の成果等、最新の情報を掲載する。	① ホームページの掲載内容と更新状況の確認	生 2 保 2 職 2	89.9% 88.0% 98.0%	① ホームページの内容を整理するとともに、部活動を中心に発信を行った。またClassiを用いて、学校の様子や連絡を発信した。保護者の満足度は、90パーセントに近い数値を示している。	① ホームページの内容の整理等見やすくするための改善については、さらに進める。Classiを情報発信ツールとしてより一層の活用を行ってきたい。	① ホームページの状況は良好である。ただ、先生方の負担が増加しないよう検討する必要があるのではないか。今後も積極的な情報提供をお願いしたい。	① ホームページの情報を精選して最新の情報を発信し、生徒・保護者には、Classiを情報発信ツールとして十分活用する。	
		② 定期的な校内巡視、安全点検、修繕により生徒の安全が確保された教育環境を整備する。	② 安全点検表及び修繕状況の確認、校内巡視等の報告の内容確認			② 年間3回の定期的な安全点検等により、緊急度の高いものから修繕した。	② 生徒の安全に対する意識を高める教育の充実や防犯カメラ等の設置など一層の安全確保に向けた取り組みが必要である。	② 防犯カメラの設置は、安全・安心な学校づくりのために必要ではないか。	② 防犯カメラ等の設置について検討する。 また、生徒の安全に対する意識を高める教育を充実させる。(スケアード・ストリート等)	
		③ タイムレコーダーを活用し、職員の勤務時間に対する意識改革を進め、業務改善を推進する。	③ 教職員の在籍時間等の状況の確認と業務改善の推進状況	職	私は、業務内容の効率化や超過勤務の縮減に努めている。	68.0%	③ 勤務時間に対する意識改革は進んでいるが、より業務の精選が必要である。	③ 校務分掌の統合を行い、業務の平準化や負担が一部の教員に偏らないよう工夫する必要がある。	③ 校務分掌の整理は機能的な学校運営に即したものである。先生方の負担が増えないようをお願いしたい。	③ 業務の見直しや一部の教員に負担が偏らないよう組織として業務に当たるようにする。
学習指導	「伸ばす授業」により生徒の学力向上を図る。	① 生徒による授業評価アンケートを実施する。	① 生徒による授業評価アンケートの結果(授業満足度80%以上)	生 6 生 7	73.4% 92.5%	① 科目の特性に応じ、基礎・基本から発展的内容まで工夫して授業を行った。 私は、授業において何を学び何ができるようにしたかを把握している。 先生が用意した教材、資料、プリントは学習に役立った。	① 教材の精選やICT機器を活用した学習指導を進めるとともに、生徒が主体的に学習を取り組めるよう、授業改善を図る必要がある。	① 課題解決学習に対して、教える側も生徒側も難しいところがあるのではないか。学びの保障のためにICTの活用は有効である。	① 授業方法を工夫し、ICT機器を活用した学習指導を進める。また、好事例等を教職員で共有・蓄積し、指導力の向上に役立てる。	
		② 相互授業参観や授業改善に向けた研修を実施し、学習意欲を高め、学びが深まるよう授業改善に取り組む。	② 授業力向上のための相互授業参観と研修会の実施状況	生 4 生 3 生 9	86.1% 74.6% 66.9%	② ICTを活用した学習指導を取り入れるなど生徒の学習意欲を増やす等の工夫をした授業を展開した。 私は、授業の内容に興味や関心がわいた。 レポート、発表、グループ討議等により考えを深めることができた。	② 今年度の実績を踏まえつつ、校内の無線LANの設備が整うことから、生徒の学習意欲を高めることや学習を深化させる上で、適切なICT機器を活用した授業づくりを進める。	② 特に問題もなく改善策で良い。	② 生徒の学習意欲を高めることや学習を深化させる上で、適切なICT機器のハード面の整備を進める。	
		③ 学びの基礎診断等を活用して学習課題を明確にし、指導と評価の工夫・改善を実践し、学力向上に向けた取組を推進する。	③ 生徒の学習課題の把握状況及び指導と評価の工夫・改善による学力向上に向けた取組の実践状況	生 11 生 6	81.5% 77.7%	③ 1年生から観点別評価が始まったが、職員の共通理解が難しかった。 学校は、課外や補習などの授業外学習活動の場を提供している。	③ 授業と評価の一体化を目指し、生徒の学力を的確に把握できるよう、観点別評価の質を向上させる必要がある。	③ 特に問題もなく改善策で良い。	③ 生徒の学力を的確に把握できるよう、観点別評価の質を向上させるとともに、生徒の学習課題を明確にし、より一層の確かな指導ができるようにする。	
		きめ細かな生徒指導を通して生徒の基本的な生活習慣を確立させるとともに、特別活動や部活動を充実させ、豊かな情操、道徳心、健やかな体を育む。	① 身だしなみ指導強化日を設け、基本的な生活習慣・身だしなみ等の指導に学校全体で取り組む。	① 身だしなみ指導の回数と指導状況及び学校評価アンケートの関係項目の結果(肯定率85%以上)	生 10 保 10 生 9 保 9	90.1% 89.7% 89.2% 84.8%	① 登校指導を毎日実施するとともに、毎月身だしなみ指導を行い、生徒の基本的な生活習慣の確立に効果が見られた。 学校は、基本的な生活習慣に関する指導を行っている。	① 登校指導は、今後も継続する。実施方法等については、より効果的な方法を模索する必要がある。生徒が地域に愛され、よりよい学校生活を送れるよう組織的に指導を行う。	① 生徒に対して指導内容を丁寧に説明し理解させた上で、生徒が自ら取り組めるようになってほしい。	① 登校指導は、今後も継続する。生徒に指導の意味を理解させるとともに、生徒の視点も取り入れた指導を行う。
			② 個人面談やアンケート調査等により生徒理解に努めるとともに、職員間で情報共有を図る。	② 個人面談から得た情報及びアンケートの結果の共有状況	生 8 保 8	86.5% 83.7%	② 個人面談及び相談アンケート等を複数回行い、課題を抱える生徒に対しては、教育相談委員やスクールカウンセラー、関係機関等と連携し対応を進め、早期に対応することができた。 教職員は、生徒の相談に丁寧に応じている。	② 生徒の相談内容が多様化しているため、組織的に対応するとともに、スクールカウンセラーや関係機関等と連携し、より丁寧な対応を行う。	② 特に問題もなく改善策で良い。	② 生徒の相談内容が多様化しているため、組織的に対応するとともに、スクールカウンセラーや関係機関等と連携し、より丁寧な対応を行う。
			③ 教育相談及び人権教育を充実させるとともに、生徒に関する情報を職員間で共有し、生徒の課題や「いじめ」を早期発見し組織的に対応する。	③ 教育相談委員及びSCの相談回数と早期段階におけるいじめ等の把握と組織的な対応状況	生 7 保 7	81.3% 84.5%	③ いじめアンケートを実施するとともに、生徒からの相談に対し、組織的に早期に対応した。 学校は、いじめや差別の防止に取り組んでいる。	③ 引き続きいじめを許さない意識を高める指導を行うとともに、早期発見と初期対応を組織的に進め、スクールカウンセラー等の相談機能を生かしながら生徒の状況把握を行う。	③ いじめや差別防止への取り組みへの肯定率は80パーセントを上回っており良好と思うが、5パーセントの否定者へ目を向ける必要があるのではないか。	③ いじめを許さない意識を高める指導を行うとともに、小さなことも見逃さないために相談窓口の周知徹底を今以上に図る。
キャリア教育	生徒や保護者が目指す進路選択の実現及びキャリア発達の充実を図る。	① 外部機関と連携し、体系的な進路ガイダンスを充実させる。	① 進路説明会・教員研修会の実施回数と状況	生 12 保 12	86.9% 79.2%	① 進路説明会を学年ごとに複数回実施した。生徒アンケートでは高い数値を示している。面談等を活用し保護者に情報提供を行った。職員研修も実施した。 学校は、自立した社会人を目指した計画的な進路指導を行っている。	① 進路説明会は、生徒の進路の選択幅を一層広げられるよう内容を見直す。職員研修は、最新の情報を獲得し適切な指導ができるよう充実させる。	① 進路先指導だけではなく、生徒自身が自己を見つめ自己を分析する機会を設けてほしい。	① 進路指導では生徒が自身の在り方生き方を考える機会を設ける。職員研修については、最新の情報を獲得し適切な指導ができるよう充実させる。	
		② 個別面談や進学補習等により個別の進路指導の充実を図る。	② 面談の回数と進学補習等の実施状況	生 13 保 13	89.6% 78.6%	② 面談等で生徒及び保護者全員を対象に進路に係る情報提供や指導・助言を行うとともに、個々の進路希望に応じた支援を行った。 学校は、希望進路に応じたきめ細やかな進路指導を行っている。	② 生徒の多様な進路希望に対応して指導・助言ができたことを踏まえ、一層個に応じたきめ細やかな進路指導ができるよう組織的に対応する。	② 特に問題もなく改善策で良い。	② 生徒の多様な進路希望に対応し、指導・助言ができたことを踏まえ、一層個に応じたきめ細やかな進路指導ができるよう組織的に対応する。	
		③ インターンシップやボランティアなどの体験学習を実施する。	③ 体験学習の実施回数、参加人数、活動状況	生 14 保 14	82.7% 66.0%	③ 新型コロナウイルス感染症感染対策から、大学や専門学校、関係機関等で行われている体験学習の情報提供にとどまった。 学校は、体験学習、職業体験などの機会・情報を提供している。	③ 来年度は、体験学習や職業体験ができるよう関係機関と連携をすることが必要である。	③ 各方面で活躍している卒業生等との対談の機会などを設ける等、生徒自身に社会との関わりを促した上で進路を考えさせてほしい。	③ 関係機関と連携するとともに、生徒が社会との関わりについて考えられるよう指導内容を検討する。	
特色ある活動	新しい時代に対応するため、自らの力で課題を切り拓く能力を育成する。	異文化や社会と関わる体験活動並びに自己の考えを校外で発表する機会を設ける。	生徒の体験活動の状況や校外でのプレゼンテーションの大会等の参加回数			① 短期留学及び長期留学は、中止となった。代替として国内での体験学習を模索したが企画できなかった。 ② 多くのボランティアは中止となったが、幼稚園での実習、家庭科での認知症講座、物理での放射線講座などを行った。	① 次年度は留学を実施する予定ではあるが、難しい場合は、リモートでの国際交流等の在り方を検討する必要がある。 ② より一層、外部機関との連携を実施し、生徒に生きる力を育む必要がある。校外に出ることが難しいようであれば、校内でできることを模索していき、教科・科目や総合的な探究の時間、特別活動の中に位置付けて体験活動の充実を図る。	① 特に問題もなく改善策で良い。 ② コロナ禍で中止となっている地域連携事業について、次年度は実施してほしい。特別支援学校との交流も多様な社会の構築を求められる現代社会において、高校生には必要ではないか。	① 次年度は短期留学を実施予定ではあるが、留学が難しくければ、リモートでの国際交流等の在り方を検討する。 ② コロナ禍以前に地域と連携して実施した取組ができるよう関係を維持する。難しいようであれば、今年度同様、校内でできることを模索していく必要がある。教科・科目や総合的な探究の時間、特別活動の中に位置付けて実施を検討する。	